

最後に助言者の菊池様より、対象者を知り、その対象者が住まれている地域のことを知り、その地域で対象者の生活を支えるためにどうしたらいいのかを考えていくことが、大切だと言われました。

地域包括ケアとは、「日々対象者の方に安心感を提供する」ということであり、それを実現していくためには、何かあったときに、迅速に対応できる体制や日頃からの人間関係が大切であるとの説明がありました。

私達ケアマネジャーは、対人援助職としての知識を研鑽しておくことを怠ってはならないと締めくくられました。

## ◆講演会

「地域活性化の決め手はこれだ！  
『ご近所の底力・取材活動から』」

大会二日目の午後、

講師に元NHKアナウンサーであり、現在日本体育大学客員教授でフリーアナウンサーの堀尾正明氏をお招きし、これまでの様々な取材活動などから得られた経験を基に、地域力についてのご講演をいただきました。この講演は、市民公開講座として、一般の方々にもご聴講頂きました。

講演の中で堀尾さんは、日本人は自分の考



えを人に伝える能力に乏しく、「コミュニケーション」が取りにくい国民性であるが、「話す」「見せる」「アピールする」という大切な教育がなされていない。話すということは自分の気持ちを伝えるということ、書き言葉でなく、話し言葉で話すことが相手に説得力を与える。誰と話しているのか、いかに相手の言語に合わせられるか、目線も相手に合わせるコミュニケーション能力を身につけてほしいと私たちケアマネジャーに訴えられました。

堀尾さんが以前司会を務められていたNHKの番組「難問解決！ご近所の底力」の取材の中から、空き巣被害の多かった杉並区馬橋地区の地域住民による防犯活動の取り組みについて紹介がありました。防犯活動を通して住民同士に徐々につながりができ、やがて子供会や夏祭りが復活したり、いろんなサークルやスペシャリストの集団が町にできたりするなど、二重三重の波及効果で地域が活性化したという、地域づくりを考える上でとても参考になるお話でした。

また、堀尾さんは、孤独死や核家族化などが増えていく中で、今後支えになるのは地域であり、お互いに互助していくことが課題である。自分たちの地域を潤すために、何かにチャレンジする気持ちを持って、住んでいる人と一緒に何か新しいものを作りだして、高齢者の方が生き生きとする街づくりに貢献してほしい、と熱く語られました。

「冬のソナタ」の放映に関する裏話など、堀尾さんのお話はとてもユニークでユーモアにあふれ会場は大いに盛り上がりました。つ

いつい話しに引き寄せられてしまい、あっという間の一時間半でした。

## ◆懇親会

大会一日目終了後、シーモールパレス・ルビーの間にて、約六十人が参加して懇親会が開催されました。日本介護支援専門員協会の柴口常任理事による乾杯の後、みなさんごやかに歓談を楽しまれました。会の途中からは、ケアマネ応援歌「そよ風を感じながら」のボーカリストで県協会元副会長でもある久野隆一さん率いるバンド「自遊の街とゆかいな仲間たち」の生演奏があり、会場は大いに盛り上がりました。最後は、参加者全員で「そよ風を感じながら」を大合唱し、二井大会実行委員長の音頭でみんなが手と手を取り合っ

